



日本聖公会  
大阪教区教務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
教務局長 司祭 原田光雄

(HP) <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> (e-mail) [office.osaka@nsk.org](mailto:office.osaka@nsk.org)

第419号 2011年6月12日発行

## 聖霊を理解する難しさ

復活日、降誕日と並んで聖霊降臨日は三大祝日と言われている。イースターの祝会、クリスマスのは祝会を行っているものの、なぜ聖霊降臨日の祝会はしないのか。

正直に言うと、洗礼を受け、堅信を受け、司祭になってその度に聖霊を受けているのに、聖霊について理解できているかと言えばそうではないみたい。



## 神の息を吸う

司祭 テモテ 内田 望

イエスさまはおっしゃられた。『真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる』(ヨハネ16章13節)。この言葉の意味に関してもう一つ理解に苦しんでいる。

入信準備会の時、聖霊について「聖なる霊で命の与え主…」と説明しても、説明になっていないような気がする。神学書の「聖霊」の項目をいろいろと読み比べてみても、少しわかったような気はするものの、どうも実感とし

てはいまひとつ。

情けない限りではあるが事実。事実。

聖霊は頭で理解しようとしても無理なのかも…。

## 体験してみなければ

たくさん知識を持っても、どんなにうまく説明できても聖霊は体験してみなければわからないような気がする。その点、イエスさまが難しい説明ではなく、息を吹きかけるかたちで聖

霊を与えられたのは意味深い感じがする。「彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい』(ヨハネ20章22節)。息を、神の息を吹きかけられた者が聖霊を受けるのである。

「聖霊」の「聖」は「神さまの」という意味。「霊」は「息」や「風」を意味する言葉。私たちは「神さまの息」の中で生きている。神の息を吸って生かされている。

「主なる神は、土(アダマ)の塵で

人(アダマ)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記2章7節)。最初の人間が、その鼻に神の息を入れられて生き始めたように、人間は神の息を吸って生きる。

「息」は「生きる」とつながっていると聞いたことがある。霊と命とが深い関わりを持っていることが分かり、何か親しみが感じられる。

イエスさまは、いつも共にいてくださり、私たち一人ひとりを愛してくださっている。そのため、私たちが生きるために一番大切な「息」になっただけだった。聖霊を理解するのは頭ではなく、知識を積み重ねるのではなく、「息」を吸うことによつて体験してみたい。「息」は神さまが生きておられることのないもの証である。「息」は目に見えなくとも、「息」に動かされているものは見ることができから。

今年の聖霊降臨日、思い切つて「息」を吸い、大きな恵みを味わいたい。

(うちだ のぞむ・川口基督教会 牧師、大阪聖パウロ教会管理牧師)

# 井上進次司祭の誕生を祝い 按手式に320人が集い感謝

春の日差しに包まれた去る5月8日、それぞれの教会で感謝と賛美の主日礼拝を捧げた後、午後3時から、大阪教区主教座聖堂・川口基督教会でパウロ井上進次執事の司祭按手式が執り行われました。

式の10分前に鐘が鳴り響き、大阪教区以外に他教区や他教派の方々の出席があり、予想をはるかに超える320人余りの会衆で聖堂はいっぱいになりました。喜びの瞬間を共に祝う期待感の中、司式の



サムエル大西修主教、説教のペテロ岩城聰司祭や聖職団が待つ聖壇に、推薦者の芦屋聖マルコ教会・施洗者ヨハネ山本真司祭、尼崎聖ステパノ教会・信徒ペテロ鈴木憲二さんに付き添われて、司祭志願者・パウロ井上進次執事が厳かに始まりました。

説教のなかで岩城司祭は、ウイリアムス神学館での師弟関係や、執事が当時20代から60代までの神

へレナ 杉山 櫻子

学生のため役をしていたこと、そして在任のプール学院中学校・高等学校のチャプレンは、ご自分の後任であるこ

となど、井上執事との接点をお話しになりました。聖堂に流れる聖歌にフルートの音色が加わった、より一層温かな雰囲気の中、真つ赤な式服に包まれた新司祭が誕生しました。

の言葉に始まり、各方面からのお祝いの言葉が続きました。そして出席者全員の拍手に包まれて会は終了となりました。井上進次新司祭の今後の活躍を約束された様な、何より暖かい一日でした。(すぎやま えいこ・尼崎聖ステパノ教会信徒)

## 東日本大震災への大阪教区の取り組み報告

### 「祈りと献金」「物資の提供」「ボランティアの派遣」など

# 4つの柱決まる

司祭 ヨシユア 原田 光雄

東日本大震災は、地震発生後ふた月を経た今もなお、惹き起こされ続けている。当教区の災害対策（被災者

末まで目標総額5000万円の募金を実施している。

された（仙台プロジェクトは、現在停止。東北教区・管区の「いっしょに歩こうプロジェクト」が発足）。

- ① 祈りと献金
- ② 必要物資の提供
- ③ 被災地支援ボランティアの派遣（仙台プロジェクト／日立・いわきプロジェクト）
- ④ 一時移住希望者の受入

- ②は、寄せられた物資4トトラック満載分を4月5日、仙台経由でももに福島県新地町役場（物資集積所／避難所）と同町立福田小学校（避難所）に届けた（現在、物資はほぼ充足状態で一時停止）。

④は、現在のところ、準備として予備登録を受け付けている。

- ①は、地震発生直後から献金を献げ、継続中。来年3月

- ③の「仙台プロジェクト」は、②の物資搬送の際、ボランティア2人が仙台に逗留して東北教区の対策本部で活動し、その後、他の2人が派遣

③の「日立・いわきプロジェクト」は、東北教区との連携、現地近隣教区の協力を得、京都・大阪・神戸3教区主教が合意して立ち上げた「日

（次頁4段目につづく）

東日本大震災  
第 1 次募金大阪教区の目標は5千万円  
善いサマリア人として被災者と共に歩もう

主教 サムエル 大西 修

しています。

東日本大震災・京阪神聖公会・日立ボランティアセンターが4月12日に立ちあげられてから2カ月、神戸から5月20日大阪へと引き継がれてきた担当教区は、6月10日京都へとバトンタッチされます。

この間、大阪教区では岩城、木村、松平司祭を順次派遣し、その任を負っていただきました。また多くの信徒の皆さまがボランティアとして参加してくださいっています。さらには後方支援として各教会から救援物資を集めてくださった皆さま、それを梱包して送る作業のお手伝いをしてくださった皆様、そして大切な救援募金をしてくださっている皆さまに心から感謝いたします。

大阪教区は第1次救援募金として目標額5,000万円を掲げ、2012年3月末までにこれを達成したいと切望

なぜ目標額が5,000万円なのか？ 募金の使途は何か？ このようなお問い合わせや質問をいただいております。募金は管区へ送りますが、管区ではそれを目に見える形で使ってくださいよう要請しています。具体的には何よりもまず、被災者の救援支援に用いること（主に信徒、あるいは関連施設に関わる人々、幼稚園・保育園職員や園児の家族、また教会近隣の地域社会の人びとなど）が第一であり、そのための働きをする常勤の人材を配置し、救援支援センター的な場所を設置することなどにも用いられることが考えられます。

教会復興のための募金も必要ですが、それはもう少し先のことであると考えます。

目標額の5,000万円に

ついては、ご意見も多くあるうかと思いますが、私としては大阪教区内の各教会・信徒の皆さまが、熱い祈りをもっておささげくだされば、実現可能な金額であると確信しています。

ちなみにこの金額は教区の1年間の一般会計予算額を少し上回ります。一つの目安として、現在受聖餐者1人が3万円をおささげくだされば達成できる数字です。

「善いサマリア人のたとえ」(ルカ10:25-37)を思い描きながら、被災地を歩きました。

サマリア人は真のボランティアでした。自らの身の危険を冒してまでも傷ついた旅人(被災者)を助けて、病院に相当する宿屋(避難所)にまで運び、その上、旅人(被災者)の滞在費・治療費までも

(前頁よりつづく)

立・いわき地域 東日本大震災 京阪神3教区救援協働プロジェクト」のこと。「京阪神3教区が一致協力して、北関東教区日立聖アンデレ教会を

基地とし、いわき市以南地域被災者への救援活動を実施する。併せて、東北教区小名浜聖テモテ教会の主日礼拝に聖職を派遣する」ことを目的とし、当面6月末までを第1期とする。その拠点「京阪神聖公会 日立ボランティアセンター」は、北関東教区日立聖アンデレ教会に設けられている(4月19日開所式)。詳細は「5月教務局だより」を参照。

約3カ月の期間を3教区が分担し、センターを統括する責任者(教役者)と実務担当者(ボランティア)を3教区内外からボランティアを迎え入れる。第一走者を神戸教区が担当し

てパイオニアの役割を果たされ、5月20日から6月10日までいよいよ当教区が担当する。統括責任者とその担当期間は次のとおり。

・5月20日(金)～5月24日(火)  
岩城 聰司祭  
・5月24日(火)～6月4日(水)  
木村 幸夫司祭  
・6月4日(水)～6月10日(金)  
松平 功司祭

実動のボランティアが、できる限りコンスタントに参加する必要があります。

なお、当教区の今災害対策の担当者には、教区の役割上もあって暫定的に当初から筆者が当たってきたが、この度、木村幸夫司祭が正式に任命された(5月16日付)。対策の一層の強化が期待される。被災地訪問の報告については、紙面の関係で他の方々譲る。(はらた みつお 教務局長)

支払うというホスピタリティに満ちあふれた言動を喜びのうちに実行しました。

わたしたちも今、善いサマリア人として東日本大震災の被災者と共に歩んで行くこと

が、主から求められています。自分にとってある種の痛みを感じつつささげる救援募金こそ、大きな祝福があることを忘れないようにしたいものです。



トラックへの物資の積み込み

## たくさんの救援物資 力を合わせば大きな働きに

聖職候補生 クリストファー・奥村 貴充

「たくさん集まったなあ」、4月3日の晩、第一次救援物資配送の前夜に段ボール箱を見渡しなが、そう感じたことを思い出します。

聖贖主教会の牧師館では救援物資の集積、仕分け作業、トラック積み込みなどが3月下旬から4月上旬にかけて行われていました。当初は救援物資が集まるのだろうかと思

い、4トトラックが隙間だらけではないかと心配していましたが、トラックの荷台を埋めて救援物資を送り出すこと

が出来ました。

こうして約2週間という短い期間の出来事でしたが、回想していると本当に多くの方々が救援物資のために関わり、大阪教区に連なる一人一人が心を一つにして取り組みました。牧師館の一室で仕分

け作業をしていた時に、またトラックに積み込みを手伝った博愛社の中学生たちの働きを見た時に、一人一人が力を合わせればこのように大きい力になると実感させられました。物資を提供する人、仕分けをする人、運ぶ人というように、牧師館という限られた現場でも、それぞれが与えられた役割に応じて、主の御用のために働くことが

出来たと感じます。こうした苦労は被災地の方々に比べようもありません。しかしほんの些細な働きでも主は祝福してくださるということを信じます。

まだ復興は始まったばかりです。牧師館には毛布や古着などを中心に物資が残っていますが、バザーなどで別の形を通して今後も御奉仕をしていければと思います。  
(おくむら たかみつ・大阪聖贖主教会勤務)

## 津波の跡を目の当りに 東北教区の働きに祈る

聖職候補生 ヨハネ 古澤 秀利

方々が再び長い列をつくりました。「テレビの地震速報のアラームが怖い」と仰る方もいました。私の目に

4月4日から13日まで、大震災から約1月後の被災地を訪問し、足手まといになったとは思いますが、主に物資の整理と搬送のお手伝いをさせて頂き、仙台基督教会を拠点に仙台市内をはじめ、福島県

でも「本当にここで地震があったのだろうか」と思うくらい、目に見える形での地震の傷跡がほとんどありませんでした。しかしガスが止まっている地域は多く、復旧作業が続けられていました。そして4月7日の強い余震が起こり

は映っていませんでしたが、市街地にも大地震の傷跡は確実に存在していました。

新地町や、遠方では岩手県釜石市を訪れました。

仙台市街は街中を歩いてい

ある家屋の三階の割れた窓か



釜石神愛教会に集まった救援物資

ら、地面に食器や壊れた家財を落としている方が居られました。その家屋にも二つの印が書かれていました。その方は震災によって大きな傷を負いながらも、必要な家屋の整理をされていたのではないのでしょうか。

多くの方が目に見えない傷を負いながら生活をされていることと思います。東北教区はそのお一人お一人に寄り添う働きをされているように感じました。震災にあわれた方々、そして東北教区の働きを覚えてお祈りしています。  
(ふるさわ ひでとし・高槻聖マリヤ教会勤務)

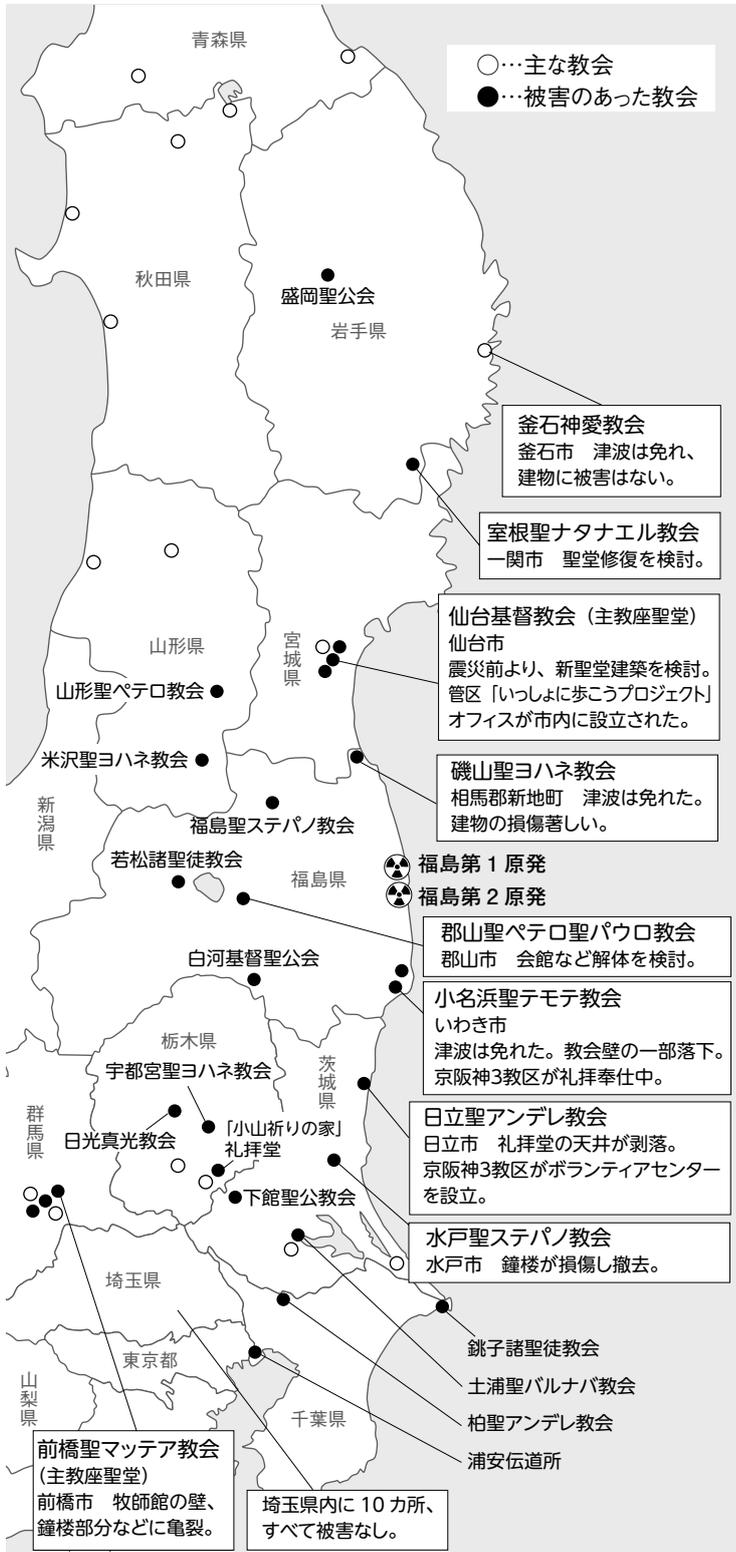
# 震災支援は祈りと共に

ダビデ 鈴木 璋三

## 東北・北関東教区の主な教会と被災状況

2011年5月現在

(横浜教区の一部を含む。東北教区では、このほかに幼稚園9カ所が被災)



東日本大震災で被災された方々、逝去された方々に主の慰めと、癒しがありますよう祈ります。

震災から3カ月近く経った現在と、教区からの救援物資を届けた時とは状況に大きな変化があることを最初にお断

りしておく。

教区の対応の遅さ、緊迫感の弱さを、まず反省しなければならぬ。北海道教区、近くは神戸教区のアクションと比較しても。

その他3人は東北教区へのお見舞い状、救援物資、

ことに、のぼるミッシェンと呼ばれる教区内ボランティアグループが4人トラックの手配、金銭的なバックアップをなしたからこそ、仙台に向けて大阪教区より救援車が発車したことを知って頂きたい。

大震災への救援は、祈りを最初に、現実の状況を冷静に把握し、我々は何をなすべきか、何が出来るかを謙虚に思考することから始まることを実感した。

東北教区災害対策本部長(主教)を始め、総務・渉外担当、事務局の先生方には本当に頭の下がる思いであった。身体を張って、命を張って被災者の方々に少しでも役立つことをさせて頂く、主の御

用のために働かして頂くことを学ばせて頂いたことは感謝であった。

被災地への支援・協力はこれからも長く必要と思われる。我々は今後とも、言葉だけでなく、現状に合わせて何が出来るのか、何をなすべきかを祈りと共に考え行動して行かねばならないと思う。

(すずき しょうぞう・川口 基督教会信徒)

支援金にいち早く声を上げていた信徒の群れの一つであった。

ことに、のぼるミッシェンと呼ばれる教区内ボランティアグループが4人トラックの手配、金銭的なバックアップをなしたからこそ、仙台に向けて大阪教区より救援車が発車したことを知って頂きたい。

の弱さを、まず反省しなければならぬ。北海道教区、近くは神戸教区のアクションと比較しても。

京阪神聖公会 日立ボランティアセンターの活動から

土のう作りの作業に出て来た1枚の写真  
被災者の方々との出会いに心の繋がりが



5月3日、6時起床、7時朝の祈り、8時日立聖アンデレ教会内に設立されたセンターを出発。我々シニア組、山下・當田（京都）、瀬山・服部・長野（大阪）の5人は、日立から約50キロのいわき市小名浜地区災害救援ボランティアセンターへ。連休のため約160人のボランティアが集合。登録を済ませ、我々5人と岐

阜からの若者4人、現地の青年1人の10人が一組になり、指定された現場へ入り活動に当たりました。

小名浜・永崎地区は永崎海水浴場として美しい海岸沿いの集落。その地区一帯は崩落して放置された家、川に沈みそうに傾いた事務所、家屋はすべて一階部分が津波に襲われ、砂まみれの見るも無残な惨状でした。

私達の活動は道路の側溝を埋め尽くした砂と、住宅の庭に流れ込んだ砂のかき出し作業でした。土のうに入れても入れても埒（はかど）らない作業。その日一日で約500個の土のうが道路わきに積み上げられました。

活動中、砂の中から一枚の写真が出て来ました。朝から無口で作業をしていたその家の奥さまに見せたところ、写真、娘さんが高校時代のソ

シラス 長野 泰信

フトボール全国大会での記念写真でした。砂を丁寧を除かれ、大粒の涙を流されました。はっとして娘さんの安否をお尋ねしたところ、仙台の方で

元気にされているとのこと。一枚の写真をきっかけに、罹災された日のご家族の状況、80歳のお母さんの行方が一晩判らなかつた状況や、砂に埋もれた植物の思い出話をお聞きしたりと、和やかに、しかしきつい作業を進めました。夕方、活動を終えたボランティアが、私達に加わって総勢20人ほどで作業を終了。当家の奥さんの「ありがと

うございました、花が咲くようになればまた来てくださいね」の笑顔の一言と、帰路立ち寄った小さな旅籠の温泉がすっかり疲れを癒してくれました。出会いと心の繋がりが、なんとも言い表せない充足感で満たされた一日でした。主に感謝（ながの やすのぶ・石橋聖トマス教会信徒）

# ボランティア募集

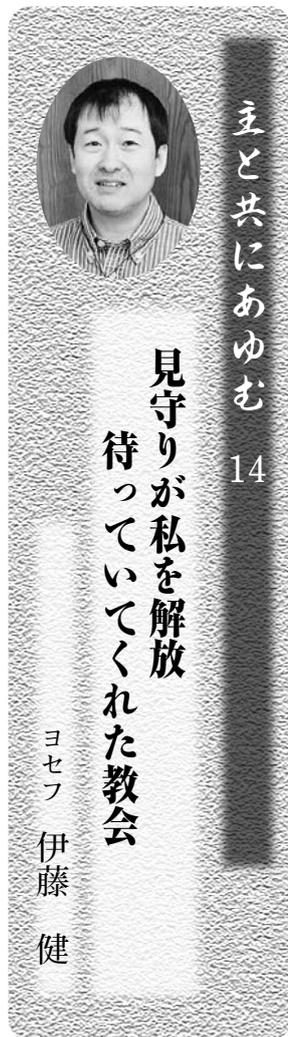
※この「募集」は「日立ボランティアセンター」発行によるものです。必ず、大阪教区の『被災地支援ボランティア』登録のお願い(その2)』と併せてお読みください。(司祭 原田光雄)

東日本大震災の被災者支援のために京阪神聖公会 日立ボランティアセンターでは下記の内容でボランティアを募集しています。大阪教区ボランティア登録をしたうえで、別紙受付表を提出してください。募集期間 6月30日(木)まで。

記

- A【対象】 40歳以上の方
- 【場所】 「いわき市小名浜地区災害ボランティアセンター」  
福島県いわき市小名浜中町境 17-15
- 【内容】 ①傾聴ボランティア  
②片付けボランティア  
③その他
- B【対象】 年齢は問いません
- 【場所】 「京阪神聖公会日立ボランティアセンター」日立市城南町 1-6-1
- 【内容】 日立ボランティアセンターの維持・管理、センター近辺の家屋の修理など

詳細は大阪教区事務所まで  
電話：06-6621-2179  
FAX：06-6621-3097  
Eメール：office.osaka@trad.ocn.ne.jp  
※件名に「ボランティア」等と明記。



転勤の多い営業マンの父と共に、転校が多い少年時代でした。転校は環境が変わる一

大事のほうですが、つらい思い出がありません。定期的にやってくるものでした。回を

重ね次第に新しい環境になじむための心構えを持つようになりました。それは、ねばな

らないです。転校生だから早く級友と仲良くならなければならぬ、転校生といえども上手にやってみせなければならぬ。この「ねばならない」を支えたものが「がんばる」でした。これらを過剰に発揮すること、それなりの成果と結果をもたらす、かつ負ける気がしない、という根柢のない「強気」ももたらしました。その

妙な勢いを持って大人になっていきました。40歳を過ぎたある日、突然、不自由な体になりました。退院の時、主治医は、私たちができることの全てを行いました。ここからはあなたです。がんばってくださいと、見送ってくれました。

「がんばる」は得意なはず。しかし、病院の外は、体の不自由を再認識するばかり。がんばれない。何かに負けそうでした。

### 希望をもって生きる



4月29日、恒例のキッズフェスティバルが川口基督教会で開催され、大人と子ども合わせて140人を越える楽しくにぎやかで有意義な1日でした。「復活」をテーマに良く準備されたプログラムは、子どもたちの心と体に主のご復活の喜びを伝えたことでしょう。乳幼児期から小学生、

そして中学生へと成長していく子どもたちひとりひとりを、教会はそして親たちは、もともとと大切に育てていく使命があります。これは重要な宣教課題の一つです。教会で、また家庭でどれだけ真剣に子どもたちの信仰の成長について考え、話し合い、そのために努力しているでしょうか。あまりにもこの世のことに物分りの良い牧師であり親であるがゆえに、信仰の核心で

ある主イエスを信じて生きることが、何にも勝って大切であることを、子どもにしっかりと伝えてこなかったのではないか、自らのこれまでの牧会生活を振り返り、反省させられています。まずわたしたち大人の信仰が問われています。

4月30日、東日本大震災・京阪神聖公会・日立ボランティアセンターのある日立聖アンデレ教会牧師館に泊まり、5月1日、被災地の小名浜聖テモテ教会で聖餐式をさせていただきました。2日には日立聖アンデレ教会で福音記者

聖マルコ日の聖餐式を捧げ、また二葉幼稚園の園児たちにお話しする機会もありました。今なお頻繁に余震のある中で登園してくる園児たちですが、その笑顔に将来への希望を見る思いがしました。不安の中にあっても「あなたに、平和があるように」と励まし、語りかけてこられる主イエスを信じる信仰に支えられて……。

(主教サムエル大西修)

商店街のそばにある教会は、毎日私を待っていました。そして、教会のそばにある商店街は、毎日、私の危うい足元を見守っていました。皆の見守りに支えられ復職。毎日の通勤では、「強気」なワカモノが、私の不自由を見て席を譲ってくれる。

見守りは、「がんばらなければならぬ」から私を解放し、少しづつ不自由な体を受け入れることができるようにしてくれています。

(いとう たけし・守口復活教会信徒)



# 京都教区との協働を目指して 聖職と教会紹介 ⑤



司祭 アグネス 三浦 恵子

(平安女学院大学高槻キャンパス・チャプレン)

東京の神学院を卒業して6年目を迎えました三浦恵子です。京都復活教会で2年、その後平安女学院大学高槻キャンパスのチャプレンとして勤務して4年目になりました。2010年3月に司祭按手の恵みに与りました。

主日は、京都教区の教会で主日勤務させていただくと共に、クリスマスの礼拝やイースターの礼拝でその他の教会を経験させていただいています。

奈良、三重、和歌山、富山など、これまで多くの教会とその地域の方々との交わりから多くのことを教えられ、学ばせていただきました。力不足ではありますが、主日に教会で共に礼拝をお捧げする時、神さまにつらなる喜びを

いただきます。

大学では、昼休みの50分の中で、チャペル礼拝を設けていますが、出席する学生、教職員は少数です。寮の定期の晩祷では、保育士、幼稚園教諭などを目指している学生が多いため、ことに聖書、キリスト教に関心をもってもらいたいと願いながら話をしていきます。そして、これからの歩



執事 ダニエル 鈴木 恵一

(聖アグネス教会牧師補)

2009年から聖アグネス教会で勤務させていただいています。

神学校に入学する前には、

みの糧となるような時間になればと努力しています。附属幼稚園児の礼拝も大学チャペルで実施しています。

以上のように、場所と時が与えられている中で、そして年間のチャペルの行事を通して学生、教職員にとってキリスト教が身近になることを望んでいます。学院内では、チャプレンは教会の外の人と常に触れ合う恵みをいただいている存在として役割を果たしていきたいと思っています。(みうら けいこ)

聖公会生野センターで働かせていただいていたので、大阪教区の教会を訪問させていただいたりしていました。地

## 教区礼拝

と き 2011年 9月25日(日)  
午前10時30分から

と ころ プール学院清心館

説教者 頼榮信主教  
(台湾聖公会主教・予定)

午後、原子力発電の実態と安全性の問題を主題として、講演と学びの集いを予定

域や教会の方々の出会い、そして聖公会生野センターでの経験は、聖職をめざすおおきなきっかけの一つでした。どうもありがとうございます。

聖アグネス教会の礼拝堂は、1898年に、聖三一大聖堂、平安女学院の礼拝堂として建てられました。その後1923年、平安女学院の学生・教職員の会衆が中心となって、聖アグネス教会が発足しました。

何度かの改修が行われましたが、建設当時の雰囲気をおこすこの礼拝堂は、1985

年には京都市指定有形文化財にも指定され、京都市内のレング造建造物の一つとして多くの方々が訪れます。

聖アグネス教会の主日礼拝は、4回(早朝礼拝、英語聖餐式、日曜学校、聖餐式)行われ、あわせて40人から60人の方々とともに礼拝を捧げられています。また京都に観光に來られた方が礼拝に出席されることも少なくありません。

また平安女学院の卒業生の方が、ドアの開いているのを見て礼拝堂に入って、久しぶりに、学生時代に、ここで礼拝(次頁最下段につづく)

### 主教座聖堂のパイプオルガン

## 20年目、初のオーバーホール

アグネス 高橋 明子

1991年2月に組み上がった主教座聖堂（川口基督教会礼拝堂）のパイプオルガンは、今年でちょうど20年目を迎えました。

十数年を経過し、ベンチの割れの修理や内部の埃を払う時期にきていました。

阪神大震災時、一度は解体・保管・再組み立てを経験していますが、それからでももう

5月16日の月曜日から丸一週間をかけて、4人の技術者によって千本近いパイプが順にはずされ、会衆席の椅子を後ろに寄せて広いスペースが



出来た聖堂の床に置かれていきます。

身体の肺に当たる風箱の風圧を調整して十分に音が鳴る

### 祈りと連帯のシンボル

## 十字架ペンダント・プロジェクト

## 守口復活教会で進行中



作業中の山野上司祭

東日本大震災の被災地の人々を思い、「祈りと連帯」のシンボルとしての十字架を作製し、被災地の教会へ贈るとともに、大阪教区内でご購入いただき売上金を復興募金とすることが私たちにできることと考え、3000個を作製・販売中です。

4月24日（復活日）に各

教会へ案内をし、すでに教会単位で申し込んでいただきました。東北教区、北関東教区には合計で1450個お贈りしました。また、大阪教区内では、18教会から1310個の注文を頂き、すでに発送いたしました。また、教区婦人会の昇天日礼拝後のバザーでも購入していたいただきました。

2012年3月の震災1周年を目指して、さらに全国の教会に案内し購入いただけるよう製作しています。

### 講習会のご案内

## 礼拝音楽ワークショップ

(小、中、高校生向け)

### 音楽のささげもの

～アンサンブルをしてみよう～

簡単な聖歌を鍵盤楽器、管楽器、弦楽器で

アンサンブルをしてみましよう。

申し込み後、楽譜を配布します。

●7月24日(日) 午後2時～4時

●場 所 川口基督教会

●申し込み締め切り 6月30日(木)

詳しいことはチラシと案内をみてください。

主催：大阪教区 宣教部 礼拝・音楽委員会

環境にし、パイプや内部の埃を払い落とします。埃は排ガスなどで真つ黒でした。

さてそれからパイプを元に戻しますが、強い地震でもはずれ落ちないようにフロントパイプをワイヤーで固定。後は一本ずつ整音、ヴォイシングの作業です。三度（例えばドとミ）の響きが美しい透明感のある調律法で、伸びやかな明るい音が出せるようになります。100人から300人の礼拝でも十分な音量で鳴り響くようになりました。

オーバーホールは大掛かりな作業ですが、楽器を長持ちさせるためには欠かせません。

（前頁よりつづく）  
押をしていたことを思い出されることもあります。

この歴史のある建物を大切にしながら、教会を訪れる方々をお迎えしていきたいと思っています。

（すずき けいいち）

ピカピカになったオルガンはこれからも主日の礼拝や教区のさまざまな礼拝で、高らかな賛美の声を支える楽器として大切に使用していきたいと思っています。

（たかはし あきこ・礼拝・音楽委員会委員長、川口基督教会信徒）

# 「私の隣人は誰？」

## 京都、大阪の高校生が

### 「釜ヶ崎」を学ぶ合同キャンプ

サムエル 本間 欽吾



「ふるさとの家」前で朝ミサを受けた高校生たち

『では、わたしの隣人とは誰ですか』の主題で「J's キャンプ@釜ヶ崎・大阪」は大阪聖愛教会を拠点に3月25日(金)から3泊4日で行われた。初の京都・大阪合同キャンプ。参加者は京都・大阪各3人の高校生6人。スタート直後はぎこちなかった参加者もキャンプ終了時にはスタッフも含めて旧知の如くとなっていた。

キャンプ初日「野宿を強いられる人の思いと夜回り」について学び、翌日、釜ヶ崎の三角公園での炊き出しのお手伝いに参加した。が、いきなり先制パンチを食らった。食事を作るのだから、と三角中で頭をおおって行った。段取り説明をリーダーの方から受けようとした時、「その恰好はなんなんだ。炊き出しを受ける人たちと違和感のないようにしてもらわないと手伝わってもらうことは出来ない」とお叱りを受けた。隣人に寄り添うとは、を突き付けられた。当日の炊き出しは700食を超えた。

夜、「子どもの里」の子どもの夜回りに参加。段ボールで囲って小さくなって眠るおっちゃんたち。車道の端で毛布一枚で朝から何も口に出来なかった人もいる。子どもたちは「味噌汁とおにぎりあるけどいる？元氣なん？」と声をかけて回る。おっちゃんたちも子どもたちに語りかける。私たちも子どもたちに

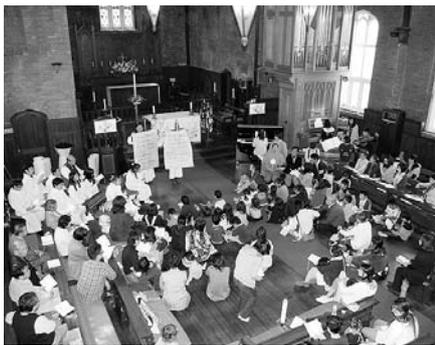
做っておっちゃんに声掛けをする。(なぜ子どもたちが夜回りなん？などは紙面の都合上記載できず)

3日目「ふるさとの家」で朝ミサ、聖愛教会の聖餐式に出席、夜はテゼの祈り。通天

閣へも上った。わたしの隣人を見つけたキャンプだった。キャンプを支えて下さった関係者の皆様に感謝します。(ほんま きんご・高槻聖マリア教会信徒)

# キッズフェスティバル2011 140人が参加、復活体験を楽しむ

ヘレナ 斎藤 みち



4月29日(金・祝)川口基督教会にて「キッズフェスティバル2011・教区子ども礼拝」がささげられました。この日、子ども56人、大人84人総勢140人が共に復活の喜びを分かち合いました。

午前中は子どもたちの交流を兼ねて、復活を体験できるアトラクションで楽しみました。教区婦人会の方々にご奉仕頂いた昼食を頂き、14時から礼拝。

奏楽チームは、昨年夏に行われた『オルガンワークショップ』に参加した子どももオルガニストたちと、管弦楽器のメンバー。この日のために、1か月半前から賛美曲を練習してきました。発表会気分ではなく、礼拝で奏楽するという役割をしっかりと自覚できていたようです。

サーバーチームは、小学6年生以上の子どもたち。礼拝

の流れを見事にリードしてくれました。凛とした姿の高学年を見て「大きくなったら、あのチームに！」と思った子どももいたそうです。

乳児の子どもたちは、一人ひとりがつくったイースターエッグを礼拝の中でささげてくださいました。

幼児・小学低学年と中学年は、礼拝の中でメッセージを担当。低学年チームは季節の移り変わりの中で新しい命への喜びを表現しました。自分たちでセリフや役割を決めている時、このストーリーには「イエスさまがいる(存在する)」という意識が子どもたちの中に生まれたようでした。

高学年チームは心の中の闇と、そこへ差し込んだ主の復活の光を表現。大きな木の十字架を子どもたちが抱える場面では、多くの人が心を動かされました。

子どもたちが主体となって生き生きと礼拝できた一日。どの子どもたちも素晴らしかったーその喜びを神さまにささげ、心から感謝します。(さいとう みち・石橋聖トマス教会信徒)



寄稿

パレスチナ・ガザ地区での活動と人々からの温かいことば

藤屋 리카

聖霊降臨日にあたり、みなさまのうえに主の平和があります。パレスチナ・ガザ地区での幼稚園を拠点とした栄養改善にご支援くださりありがとうございます。週に6日、鉄分やビタミンを強化されたパレスチナ産の牛乳とビスケットを子どもたちに配っています。厳しい状況の中、子ども

たちが幼稚園に続けて通う動機付けにもなっています。また、地元製品を使うことで地場産業を応援しています。特にビスケットは、昨年からガザ産の物を使うことができるようになりました。子どもたちの大好きなチョコレート味のウエハースタイプのものです。また、保健や栄養面での教育にも力を入れ、先生やお母さんたち対象に実施中です。

日本においては、3月11日の地震、津波、そして原発事故という一連の大災害、東日本大震災の渦中にあり、みなさまと同じく心を痛める日々を過ごしております。3月11日。私はパレスチナに滞在しており、エルサレムからガザ地区に移動した日で、ガザで地震について知りました。村での仕事だったのですが、子どもたちが心配して、私をテレビ

のある部屋に連れて行きニュース映像を見せてくれたり、津波が4層にも達していると伝えに

来てくれたりしました。行くところ行くところで、日本のことを心配してくださり、お悔やみや励ましのことばをかけてくださいました。政治的な不安定さが続く中

世界の窓

○シンガポールに2370万ドルの閉症センター開設

セント・アンドリュース自閉症センターがシンガポール大統領セラパン・ラマ・ナザン氏の貢献により開設された。このセンターは1913年にシンガポール聖公会主教夫妻のシャロット・フルグソンデビー博士によって創立された、セント・アンドリュース宣教師院の下に置かれている。2370万ドルの必要経費のうち、1700万ドルがシンガポール政府から寄与され開設に至

東の中で、イスラエルとパレスチナの和平交渉も進まず、ガザの人々の生活は改善しません。逆にガザ内での貧富の差が大きくなっているようにさえ感じられます。そのような状況下でも、日本の私たちのことを心配し、何かできることはないかと声を掛けてくださるガザの人々から本当に励まされました。

苦しい状況にありながらも、

他の苦しみにも心を留め優しい言葉をかけてくださるガザの人々。そのような人々に寄り添いながら、イエスさまがおられたパレスチナの地での活動を、みなさまと心と一緒にしながら続けていきたいと願っています。

(ふじや りか・日本国際ポランティアセンター)(J.V

C) 海外事業担当、慶應義塾大学看護医療学部教員)

った。ナザン大統領は、「シンガポールが進捗するには、誰一人取り残されることのないようにという心構えが必要である」と述べた。開所式典には境界からをはじめ、聖公会関係者、病院関係者、福祉関係者など400人が集い自閉症センターの開設を祝った。《May 13, 2011: Anglican Communion News Service - Digest News》

○虐待からの解放を目指して

6月23日から26日まで、カナダのビクトリアにおいて聖公会国際会議が開催される。この会議の目的は「教会がど

のようにすれば弱者のための憩いの場所になれるか」を探求するものである。具体的には、若者や病者、老人や子どもなど、心の傷つきやすい人々を虐待からどのようにして教会が守っていくのかを学ぶのである。勉強会は弁護士、聖職者、児童福祉士が講師となり進められる予定で、聖公会のみならずルター派の指導者たちも招かれ、オーストラリア、ウガンダ、英国、ザンビアなどの国々から参加者が集う。

《May 12, 2011: Anglican Communion News Service - Digest News》

# 教 区 の 動 き

## 常置委員会報告

4月18日(第7回定例)

3月28日開催の第6回常置委員会議事録を承認。

### I. 主教報告

- \*現時点で決定している教区行事、主教予定が報告された。
- \*ウイリアムス神学館の入学式が4月13日にあり、5人の新入生があった。大阪教区からはヤコブ義平雅夫聖職候補生志願者が入学、主日実習を4月17日から川口基督教会で始める。
- \*井上進次執事の司祭按手式に先立つトリートを、5月4日～5日に教区館で行う。
- \*ジョージ林正樹聖職候補生の執事試験を5月23日～26日に教区館で行う。
- \*東日本大震災の対応について

聖贖主教会牧師館に集められた救援物資は、4月4日、

第1次教区派遣の原田司祭とボランティア2名(古澤秀利聖職候補生と岡田良一兄)とともに、KOYO商事の篠井一裕兄の4トントラックで仙台へ(橋本善彦兄、鈴木璋三兄、若村正博兄が同行)。第二次は、4月16日、国分兄のトラックで和泉市役所へ。第2次の教区派遣のボランティアは2名(成岡宏晃兄と山口善彦兄)が4月17日、日立経由で仙台へ。

### II. 教務局長報告

1. 東日本大震災の現地訪問報告および京阪神三教区救援協働プロジェクトについての報告については、すでに教務局便りで詳しく報告済み。

### III. 協議事項

1. 信徒奉事者、推挙の件  
東豊中聖ミカエル教会の次の2名を信徒奉事者として主教に推挙した。  
モ一七山田護、ルツ森中みよ子(5月1日付で認可)

### 2. 5月1日付人事

木村幸夫司祭・主教座聖堂付を解き、大阪聖愛教会牧師富田林聖アグネス教会管理牧師に任命することに同意した。

### 3. 東日本大震災救援募金

第一期目標額を5000万円とする。期間は1年間(2012年3月末まで)とする。目的は被災者支援。(教会復興ではない)

5月16日(第8回定例)

4月18日開催の第7回(定例)常置委員会議事録を承認。

- および、第105(臨時)教区協議事録を林正樹聖職候補生が朗読、一部修正の上、承認

### I. 主教報告

- \*現時点で決定している教区行事、主教予定。
- \*東日本大震災京阪神三教区救援協働プロジェクトとして4月19日に「京阪神聖公会日立ボランティアセンター」が日立聖アンデレ教会に設置され、開所式に木村司祭を派遣した。5月20日までは神戸教区の担当、5月20日から6月10日までは

大阪教区が担当し、下記の司祭が責任者として常駐する。岩城司祭、木村司祭、松平司祭

\*東日本大震災3ヶ月記念聖餐式に大阪教区代表として、常置委員の鈴木光子姉が出席する。

### II. 教務局長報告

- \*聖ガブリエル教会、恵我之荘聖マタイ教会、聖ルカ教会から牧会補助金の申請が出されているとの報告があった。
- \*教区の建設資金を借りている教会には、震災募金をするという理由であれば、1年間の返済猶予を認めることになった。

### 【協議事項】

- ①東日本大震災救援募金について  
各教会に募金目標額を尋ねることとした。  
木村幸夫司祭を大阪教区東日本大震災対策本部長に任命することとした。
- ②教区礼拝について  
\*9月25日、清心館  
\*説教者として、台湾聖公会の頼栄信主教を招くことにした(交渉中)

\*式典長・木村司祭

\*大震災、あるいは原子力発電関係の特別報告を行う。

③台湾教区との協働関係は、さらに1期延長することを大阪教区として申し出る。

5月16日(京都教区との合同常置委員会懇談会)

- \*一日人事交流を今後も進めることに合意した。現在、教役者の相互訪問先を調整中。
- \*合同教役者研修会を、三重県湯の山温泉にて行う(6月28日～30日)
- \*両教区の合併を視野に入れた「検討委員会」を設立することを、次期教区会にそれぞれ教区で提出する。その性格、任務、権限等について、それぞれの教区で検討を重ね、合同常置委員会を7月(と9月)に開き、検討委員会についての議案のたたき台を検討する。
- \*両教区で宣教協議会や合同礼拝、青年大会、信徒の大会などを開催して機運を盛り上げる必要がある。
- \*相互の祈りなど、すぐに行き始める。

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇7月13日(水)午前11時

於 主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 木村幸夫司祭

司祭 ウォルター・J・エドモンズ(1889.7.1英)

伝道師 野村 志津(1997.7.1)

宣教師 エリザベス・メータ・ソフィー・ヒューボルト(1934.7.5英)

主教 パウロ 久保淵 豊彦(2006.7.12)

主教 アーサー・ウイリアム・プール(1885.7.14英)

宣教師 オクタビア・ジュリアス(1942.7.15英)

宣教師 エミリー・サンドル・フォックス(1942.7.20英)

司祭 ヨハネ 木川田 正毅(1990.7.20)

司祭 堀江 議作(1928.7.21)

執事 永田 保治郎(1941.7.21)

伝道師 中村 貞子(1953.7.23)

宣教師 エセル・アグネス・カーライル(1957.7.23英)

司祭 西田 弥吉(1945.7.24)

宣教師 ジェーン・アン・スタベリー(1963.7.24英)

司祭 サムエル 堀江 光児(1990.7.25)

宣教師 ロレッタ・レオナルド・ショウ(1940.7.29英)

◇8月10日(水)午前11時

於 主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 松平 功司祭

主教 エドワード・ピカステス(1897.8.5英)

主教 ヘンリー・セントジョージ・タッカー(1959.8.8米)

宣教師 アグネス・S・ウイリアムス(1970.8.9英)

司祭 ヨハネ 桜井 猶次郎(1945.8.10)

主教 ペテロ 藤本 寿作(1969.8.10)

宣教師 シルビア・ルイス・ケンドール・ブッシュ(1966.8.11英)

司祭 関 翔(1953.8.18)

宣教師 キャサリン・アリス・サルヴァイン・トリストラム(1948.8.24英)

伝道師 ルツ 中村 光尾(1978.8.30)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、主教座聖堂(川口基督教会)で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

ヨハネ学園

ミス・ブール記念ホーム

○新しく来年4月開設を目指し、小規模特養ホーム建設のため5月31日午前11時から起工式が行われた。現在の建物北側に隣接して、2月竣工の予定。

公 示

救主降生2011年4月24日

日本聖公会大阪教区主教  
主教 サムエル 大西 修

以下の人事を発令します。

主教 サムエル 大西 修

4月30日付で大阪聖愛教会管理牧師、及び富田林聖アグネス教会管理牧師の任を解く。

司祭 ヨハネ 木村幸夫

4月30日付で主教座聖堂付の任を解き、5月1日付で大阪聖愛教会牧師、及び富田林聖アグネス教会管理牧師に任命する。

公 示

救主降生2011年5月8日

日本聖公会大阪教区主教  
主教 サムエル 大西 修

以下の人事を発令します。

司祭 パウロ 井上進次

尼崎聖ステパノ教会牧師補の任を解き、同教会の副牧師に任命する。

教会・施設の動き

高槻聖マリヤ教会

○5月29日(日)12時30分から教会バザーを行いました。

○4月2日、下田部保育園で入園式がありました。

○4月2日、聖ヨハネ学園で、ミス・ブールの墓前礼拝を行いました。

○5月8日(日)午後3時からパウロ井上進次執事の司祭按手式には貸切バスを

尼崎聖ステパノ教会

○5月8日(日)午後3時からパウロ井上進次執事の司祭按手式には貸切バスを

用意し、出席しました。総勢40人となる喜びに満ちた1日でした。

大阪聖アンデレ教会

○これまで男女兼用の出入り口だったトイレが、全く一新改築されました。

○5月22日、紀泉わいわい村で、第3回の野外礼拝を実施。新緑の1日を楽しみました。

ブール学院

○「大阪キリスト教学校フェア」が、昨年に続き開催されます。桃山学院、ブール学院もそのメンバーです。

とき/7月30日(土)10時

ところ/日本基督教団東梅田教会

10時/各校の演奏などパフォーマンス

13時/講演会(松澤員子前神戸女学院理事長・院長)



祝受洗

川口基督教会

ヨシユア

山崎 敬汰  
(4月24日)

高槻聖マリヤ教会

ヨハネ

アンデレ

西村 元翔  
西村 太志  
(4月24日)

石橋聖トマス教会

サムエル

小松虎ノ介  
(4月24日)

フランシスコ

坪田 邦夫  
(4月28日)

尼崎聖ステパノ教会

ニコラス

鈴木 拓  
(4月24日)

堺聖テモテ教会

ルカ

ダニエル

岩城 凛太郎  
黒田 晴人  
(4月24日)

聖ルカ教会

ダニエル

マグダラのマリヤ

大久保正彦  
藤原 由佳  
(4月24日)

(現在の姓は大久保)

(4月3日)

大阪聖ヨハネ教会

リリー

谷岡 優菜  
(4月29日)



祝受洗

大阪聖三一教会

ヨハネ

伊藤 恵  
(4月10日)

聖ルカ教会

ダニエル

マグダラのマリヤ

大久保正彦  
藤原 由佳  
(現在の姓は大久保)

(4月3日)

大阪聖アンデレ教会

パトリック

古賀 稔也  
(5月15日)

魂の平安を

祈ります

大阪聖パウロ教会

森 美知

(4月24日・88歳)

ルツ  
田中 澄子  
(5月1日・81歳)

大阪城南キリスト教会

アンナ

蘆澤 すま  
(4月30日・98歳)

ヤコブ

益海 政一  
(5月4日・100歳)

テレジア

高橋千津子  
(5月6日・74歳)

聖ガブリエル教会

ヨハネ

李 康熙  
(2010年9月11日・71歳)

大阪聖三一教会

イサク

山影 昭  
(5月14日・69歳)

富田林聖アグネス教会

ナオミ

藤原 紘子  
(3月16日・68歳)

大阪聖ヨハネ教会

リリー

谷岡 優菜  
(4月29日・0歳)

聖ルシヤ教会

ヨシユア

梅田 良也  
(5月19日・84歳)

連合男子会 1日修養会

主題 信徒の働きと教会間の共働について

日時 7月17日(日) 午後3時30分  
18日(祝) 午後2時30分

場所 六甲保養荘

西宮市越水社家郷山 1-95  
TEL 0798-73-1351  
阪急「夙川」駅より車で20分  
JR「さくら夙川」駅より車で20分

講師 大阪教区主教 サムエル 大西 修 師父  
チャブレン ペテロ 岩城 聰 司祭

費用 10,000円 (1泊3食付)  
※ 但し、日帰りの方は9,000円

\*詳細は各教会連合男子会代議員までお尋ねください。  
主催 大阪教区連合男子会

前号(第418号)訂正

編集後記

9頁 見出し  
(誤) 『ウイリアム神学館出張講座』  
(正) 『ウイリアムス神学館出張講座』  
13頁 教区関係教役者逝去者  
記念聖餐式 上から6段目  
司祭 米村 健治  
(誤) (1919・5・15)  
(正) (1979・5・15)

今回の第419号は『東日本大震災被災者支援活動特集』を組みました。予定より増頁になりました。広報委員会は長時間にわたる白熱した渾身の取り組みでした。ご意見、ご感想を編集担当者までお寄せ下さい。(G)